

巡礼者イニゴ

聖イグナチオ・デ・ロヨラの劇的な生涯の劇

塩谷惠策 SJ

33

第九幕 第2場 [続き]

1523年早春

カエタの港に近い村

登場人物： イニゴ・デ・ロヨラ 巡礼者
道連れ之母娘
町の女領主

声： 誰か助けてー！ 助けてー！！

イニゴ： (ガバと跳ね起き) 何事だ？こんな時間に！

声： 助けてー！

イニゴ： (母屋の方だな) よーし、すぐ行くぞー。

イニゴ： (寝ていた馬小屋から、庭に飛び出す。)

娘： (震えながら) ああ、巡礼の方。イ今誰かに、ワ私たちが襲われて、ラ乱暴されるどころでした。

イニゴ： 誰だ、そんな事をする奴は？こんなことは絶対許さんぞ

ー！ 今すぐでてこい！

母： なんて恐ろしいこと！ (顔を覆って泣きじゃくる。しばらくして、少し落ち着き) 巡礼の方、有難うございます。あなたの大声で、みんないなくなりました。

娘： あー、怖かった！すっかり目が覚めてしまって、もう寝られないわ。

イニゴ： まだ暗いけれど、もう出発しましょう。ついて行ってあげるから、上から荷物をと

っていらっしやい。

母と娘： はい、そうします。

イニゴ： 忘れ物をしないように。あの青年はどこへ行ったのだろう？

母： さっきから姿が見えませんね。

イニゴ： では、私たちだけで行きましょう。

第十幕

ローマへの道すがら

娘： 向こうに、町らしいものが見えてきました。

母： 人通りも多くなってきましたね。テレサ、疲れたでしょう？

娘： 足が棒のようになりました。でも、疲れよりも眠たいわ、夜中から歩き始めたので。

イニゴ： 町の門が締まっているのでしょうか？人が大勢門のところに集まっていますね。

この町で托鉢したいけれど、町に入れないとそれも叶いませんね。

娘： 私、あまりおなかがすいてないんです。ただ、早くどこかで眠りたいです。

母： 少し雨も降ってきました。門を開けてくれないかしら？

イニゴ： 雨がひどくならないうちに、今夜の宿を探しましょう。

城壁の外に、教会がありますね。あそこに行ってみましょう。

母： さびれていて、だれも住んでいないようですね？

娘： 入口にクモの巣があります。

イニゴ： でも、入り口の扉の彫刻など、なかなかいいですね。流石イタリアの教会ですね。誰もいないようなので、今夜はここに泊めていただきましょう。あちこち雨漏りがしますが、祭壇の前は大丈夫そうです。あなた方二人は、このベンチを二つ並べて寝台にきなさい。わたしは香部屋で休みます。この空腹を、神様に捧げましょう。

母： はい、そうします。昔ご聖体のあった聖櫃の前で休むのですね。

娘： 今夜はイエス様が守ってくださいますね。安心して眠れます。

お休みなさい。

イニゴ： お休みなさい。